

虫 ● しおせとくや

灰色の蝶ひとつ来て去りしのちイングリッシュラベンダー色あせたるか  
独房の壁に割れ目を探すと向日葵の花を蜜蜂が這う

珊瑚樹の西日のなかに垂るる実へ一匹の蟻が到達したり

逆さまに夜の黒蟻が降りて来る公衆トイレの壁のまばゆさ

かぶと虫を探す子供ら森に群れヘッドライトの光を交わす

誘引式電撃殺虫灯は立つ昭和の悪役ヒールの悲しみを持ち

エメラルドグリーンの蜘蛛の細き足の耐えうるほどの風の吹く午後

蛇行する路地にひぐらし鳴き始む小さき谷の面影を見せ

月の夜に踏みたる蟬はあなうらに焼菓子のごとかるく崩れぬ

女郎ぐも朝のひかりの透く糸の集まるところに居て動かざる

電線と木ぬれをつなぐ網に乗り朝蜘蛛ふわりふわりと浮かぶ

揺るるたびシオルダーバッグきしきしと天牛かみきりむしの声で鳴きたり

カメムシが動くのをやめ乾びそむ静けく春日さすベランダに

マダム・ルグラ・ドウ・サンジェルマンの花弁のあわいを虻が滑りぬけたり

ふらふらと墮ちそうになる蜻蛉が浮きつ遊びつびたと着地す